

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	興望館保育園		施設番号	66 - 0024
項目	評価結果に基づく現状分析 (平成22年度)	改善計画 (平成22年度末時点)	実施状況 (平成23年10月1日時点)	
向中 け長 期計 画的 画な 策構 定想 にの つ着 い実 な実 行に	<p>保育園舎改築へ向けて建築担当評議員と打ち合わせを行い、役員への説明、行政とのやりとり、内部相談体制を整えるなど、具体的な取り組みを始めている。</p> <p>保育環境の学びに取り組む大学研究室とも連携し、保育園舎改築計画に向けての準備や学びを職員と共有している。</p> <p>保育環境勉強会を立ち上げ、リーダー層を中心としたメンバーで、どのような保育をしたいか語り合い、それを実現できる園舎環境について話し合っている。</p> <p>また、他施設の見学も複数回行い、保育内容や保育環境の参考にしている。</p>	<p>行政とのやりとりから、具体的なスケジュール立てに入り、耐震検査を受ける。</p> <p>本部会議を中心に、園舎改築の基本方針を立て、建築担当評議員との連携を進める。</p> <p>役員会での報告・承認など、必要な手続きを順次進める。</p> <p>継続して保育環境勉強会を開催する。</p> <p>他施設見学も計画し、随時職員と共有し、機運を全体的に高めていく。</p>	<p>耐震検査を行い、工事を伴うより詳しい検査が11月から始まる。</p> <p>業者とのやりとりを進め、結果や動向を見ながら建築担当評議員との連携をより深めている。役員会での報告・承認など、必要な手続きを順次進めている。</p> <p>各職員会議を通じて保育内容を深めることに取り組み、保育環境の見直しを行っている。毎日のチーフ会を活用して情報交換し、学年を超えて保育室を活かしあっている。他施設見学や研修の学びにより、棚を購入して玩具を常設にし、子どもたちが主体的に活動できるように計画を進めている。</p>	
各書 種式 マの 整備 と ユア ル内 容の 整理 充 つ 実 行に	<p>主に乳児クラスを中心に、日誌や育成記録の書式の見直しを行っている。記述内容を振り返り、日常の保育により活かしやすいものにするため、現場職員と相談しながら試行錯誤を重ねている。記述内容においてはチェック機能が十分に働いているとは言えない。記述の仕方にも課題を感じている。</p> <p>処遇面や事務面において、業務が滞りなくすすむように手順は出来ている。ファイリングなどもそれぞれに進んでいる。</p> <p>これらを体系的に見通し管理できるシステムはなく、全体像がつかみにくい点は課題であり、手順を確立すべき事柄もまだあると捉えている。</p>	<p>事務局を中心に、書式やPC内の保存場所を統一する。各種書類のファイリング方法もルールを定めて統一する。各種会議や内部研修で折りに触れて記述内容について学び合う。</p> <p>また事務局で定期的に記述内容を確認し内容を検討したり、事務処理に滞りがないように全体で調整、事務時間の確保と時間が活かしているかについても確認する。</p> <p>各書類の書式がPC内のどこに保存されているか、ファイルはどのように管理し、年度替わりにもどのように移動・保管するかなどのルールを決め、その手順をマニュアル化する。</p> <p>その他にも新たに、電話対応や保健対応など、明確にマニュアル化すべきものを洗い出し、チーフ会で手順を確認して、随時作成する。</p>	<p>書式やPC内の保存場所を統一は、少しずつ進んでいる。各種書類のファイリング方法やルールの統一は、年度内には取り組む予定でいる。</p> <p>期案は作成締め切り日を設けて内容確認するようにし、互いの保育内容や記述から学びを得られるようになった。各種会議で記述内容について学び合う機会も設け、日々の記録に活かすようにしている。</p> <p>毎朝行う出欠・保健・食数確認の報告マニュアル、クラスだより作成マニュアルなど、チーフ会で手順を確認しながら必要に応じて随時作成、内容を整えている。</p> <p>PC内の書類の整理・手順のマニュアル化は年度内には取り組む予定でいる。</p>	
相保 互護 理者 解が を望 む より 保 育 参 加 の 充 つ 実 行に	<p>0・1歳児の保育参加は、昨年度3月の震災の影響で再び中止になってしまった。そのほかは順調に実施でき、そのつど保護者との相互理解につとめ、保育の様子を知っていただく、保護者の考えに触れる、よい機会となっている。</p> <p>現状として0・1歳児クラスではまだ実施できていない。実施時期や方法など検討したい。</p> <p>また、特に乳児への対応において、授乳離乳のとらえ方、発達を促す活動、おむつはずれへのアプローチなど、保護者とのように理解共有を進めるか課題を感じている。</p> <p>その他の学年でも保護者の声に耳を傾け、興望館の取り組みを改めて見直し、改善すべきことは取り組む考えである。</p>	<p>保育参加については前年度をベースに実施し、0・1歳児クラスの実施時期や内容を検討、実現へつなげる。</p> <p>乳児保健専門の保健師を講師として招き、まずは職員会議にて、乳児の育ち・親育ちなどの学びを深めていく。</p> <p>必要に応じて従来の取り組み方を見直し、離乳食においては個別に面談や保護者会をもつなど計画する。</p> <p>保育園運営全般において、保護者の視点やとらえ方はどうかと思いを巡らせ、改めるべきところは取り組む。</p> <p>保護者との連携や理解を相互に深めるべく、「園生活のしおり」や「保育園だより」の内容充実を図る。また、入園前見学者用の資料を整備し、保育園生活のスムーズな導入・興望館理解につながるよう取り組む。</p>	<p>保育参加については前年度をベースに保護者の声を参考にして、行事よりも日常の様子を見てもらう機会を増やしている。</p> <p>0・1歳児クラスについても11月に実施する予定でいる。また、年間を通じて実施回数を増やす予定でいる。</p> <p>乳児保健専門の保健師のスーパーヴァイズを受け、水分補給やスキンケア、病気への理解などを学び直す機会を持ち、日々の保育に活かしている。</p> <p>離乳食においては、栄養士も同席して個別に面談を実施、家庭での様子を把握したり相談を受けたり、毎日の給食にも活かしている。</p>	

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか「とうきょう福祉ナビゲーション」よりインターネットでも閲覧できます。

